

霧島総局・山下翔吾

記者の目

魅了されるような美しい旋律とは言えない。所々で途切れそうにもなる。だが、その音色はどこか心地よかった。

5月上旬、霧島市福山町佳例川の羽山神社で開かれた伝統の「羽山まつり」。地元の福山高校吹奏楽部が初めて参加した。「学園天国」や「上を向いて歩こう」など5曲を披露し、会場から温かい拍手が送られた。

同校の吹奏楽部は、部員の減少などを理由に2007年ごろから活動を停止していた。15年4月、赴任した榎本幸一教諭(47)の呼び掛けで愛好会として復活し、同好会を経て今年4月に部活動に昇格した。

1991年2月2日付の本紙記事は、吹奏楽団

地域をつなぐ音色

が旗揚げし、生徒19人が卒業式に向けて練習に励む姿を伝えている。学校には、楽器購入のため、住民らに対し、吹奏楽団創設費の援助を募る当時の資料も残されていた。

地域の支えで誕生した吹奏楽部の復活は、住民たちの悲願だったのかもしれない。昨秋の文化祭、先日の羽山まつりで、住民たちは一様にうれしそうな表情だった。うつすら涙を浮かべる人もいた。

全校生徒140人の同校は、生徒数の減少で存続が危ぶまれている。吹奏楽部の活躍は一筋の光明と言えよう。部員1人が奏でる音色には地域を一つにする力がある。この先も地域を元気づける存在であってほしい。